

怒 消費税10%

私はあきらめない

生活ぎりぎりなのに

書かせるのかと。

「税で安心」なら、税を払わないと安心できないのかと疑問に思い、「一種、脅迫のようで、洗脳でもあ

と感じた」といいます。最近、子どもが2泊3日の移動教室に参加するため大きな出費がありました。ハチが寄ってくるから黒、

赤のリュックや帽子はだめなど持ち物の指定が厳しく、旅費と持ち物の買い替えに5万円もかかりました。

食費は節約を重ね、外食はしない。土日は極力出かけず、光熱費は仕事の入金があったときにコンビニ払い。

「こんなぎりぎりの生活状況を、政府はまったく無視していますよね」ポイント還元などで対策

するといっても、「そもそも販促(販売促進)を目的にしたポイント制は、節約を余儀なくされる私たちの

ような家庭では意味がない」といいます。

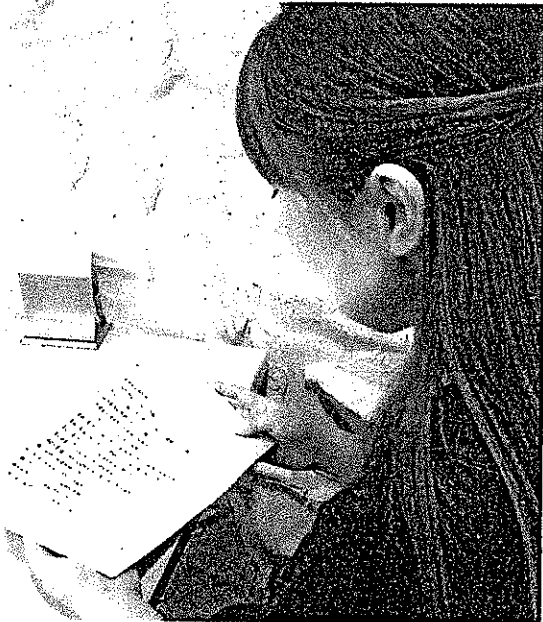
30年前の消費税導入のとき、政府は高齢化社会に備え社会保障をよくすると掲げました。アスタさんは「その目的をいっさい果たさないまま増税を繰り返すなんて、国民からしたら『どくどくの政府』としかいいようがない」と憤ります。

この30年で国民が払った消費税の総額と、大企業や大金持ちに減税してあげた額はほぼ同じだと最近聞いて、目が点になったといいます。

消費税増税を狙う一方で、憲法9条がある国で、アメリカから大量に巨額な戦闘機を買いおとする安倍政権。「消費税増税は中止してほしい。税の使い方を根本からみんなで考えるときです。安倍政権には一日も早くやめてほしいです」

(西口友紀恵)

「税で安心」。小学6年の子どもが、夏休みの習字の宿題としてこの「手本」をもち帰ったのを見て「きょっとしました」。こう話すのは、子ども2人と暮らす母子家庭の母親、アスタさん(43)。「仮名、東京都」です。消費税増税に反対の世論が大きく、世の中騒然となっているなか、なぜいま、子どもにこれを



ぎりぎりの生活に増税は追い打ちと話す、アスタさん

安税心で

「税で安心」の習字の手本